



高橋 温

三井住友信託銀行
特別顧問



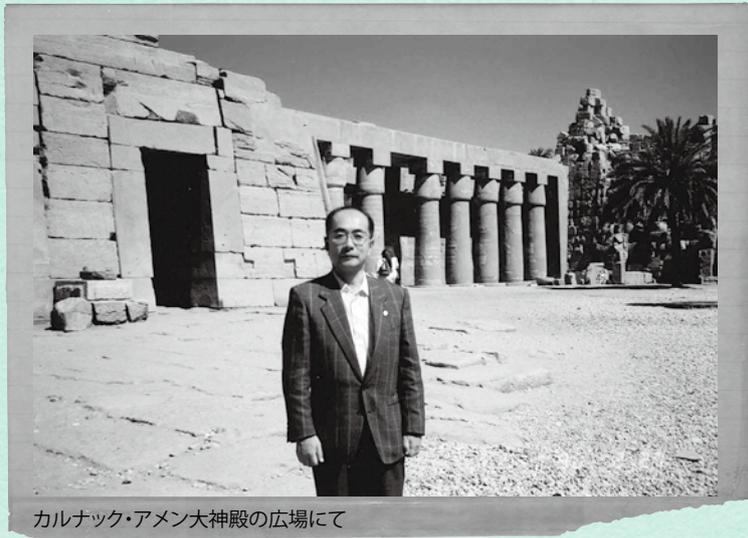
エジプト経済・金融視察団への参加

写真は1990年2月27日にエジプト・ルクソールを訪れた際、有名な神殿の前で撮ったものである。28年前、私は旧住友信託銀行の業務部長をしており、団員の中では若手に属していた。

私にとっては初めてのエジプトであったが、出掛ける前に会った東京銀行に勤める友人が、「何、アフリカ？ 君にとって最初で最後だと思うよ」と、何やら予言めいたことを言う。そのときは、こっちは先も長いし、何を言っている、とピンとこなかったが、その後のエジプトの政治・社会の混乱、私自身の年齢などからして、友人の予言は的中しそうである。

エジプト滞在は2月25日から3月1日までの4泊5日、カ

イロ、ルクソール、アブシンベルへ移動、と短かったが、その間、カルチャーショックと言ってよい見聞ができた。しかしながら、今に至ってなお一番強く記憶に残っているのは、カイロ滞在中に遭遇した日本経済大転換の兆候である。すなわち1990年2月26日(月



カルナック・アメン大神殿の広場にて

曜日)、カイロ、ラムセス・ヒルトンホテルの朝食会に集合した団員40人ほどの間に、静かな話し声がさざ波のように広がった。東京株式市場が大暴落したらしいというのである。

街に出て、新聞売りスタンドに行ってみたら、一面に「TOKYO MARKET COLLAPSE」の文字が躍っており、すぐ買い求めてホテルのロビーで読んだ。そこに通りかかったシニアの団員の方から「高橋さんは勉強家だねえ」と冷やかされるなど、まだ、せっぱ詰った空気はなかった。

その日、東京株式市場の日経平均株価は1,569.10円の下げを記録し、後になって分かることになるが、日本経済のバブル崩壊と30年にわたる停滞を告げるベルの音をカイロで聞いたのである。